

● 危急時における行動体系 ●

◆ 危急時における行動体系 & フロー

① 状況判断

ア 天候、パーティの能力、健康状態、現場の難易度等を総合して判断する。

イ 非常時には正常時の4～6割の能力しか出ないものとする。

ウ 自力脱出か待避かの判断はリーダーの決断にかかるとする。

エ 好天待ちは天気予報、天気図から十分落ち着いて判断する。

オ けがの処置は患部を清潔にして、応急処置の範囲にとどめる。

(止血、気道確保、血液循環、保温、飲み物少量当)

② 安全な場所へ移動

想定される危険(洪水、なだれ、落石、転落等)を十分に考えて場所を選定する。

寝ても安全なように十分に場所を確保する。

③ たがいの連絡を密にする

チーフリーダー、サブリーダーを中心にたがいの緊張不安の緩和につとめる。

④ 着替え等をして身体を保護

着替えなどで体を濡らさぬようにして、食事をして、余分な行動をしないなど体力の保持につとめる。

⑤ 食料管理

予測される事態を冷静に考え、余裕をもった食料計画をたてる。

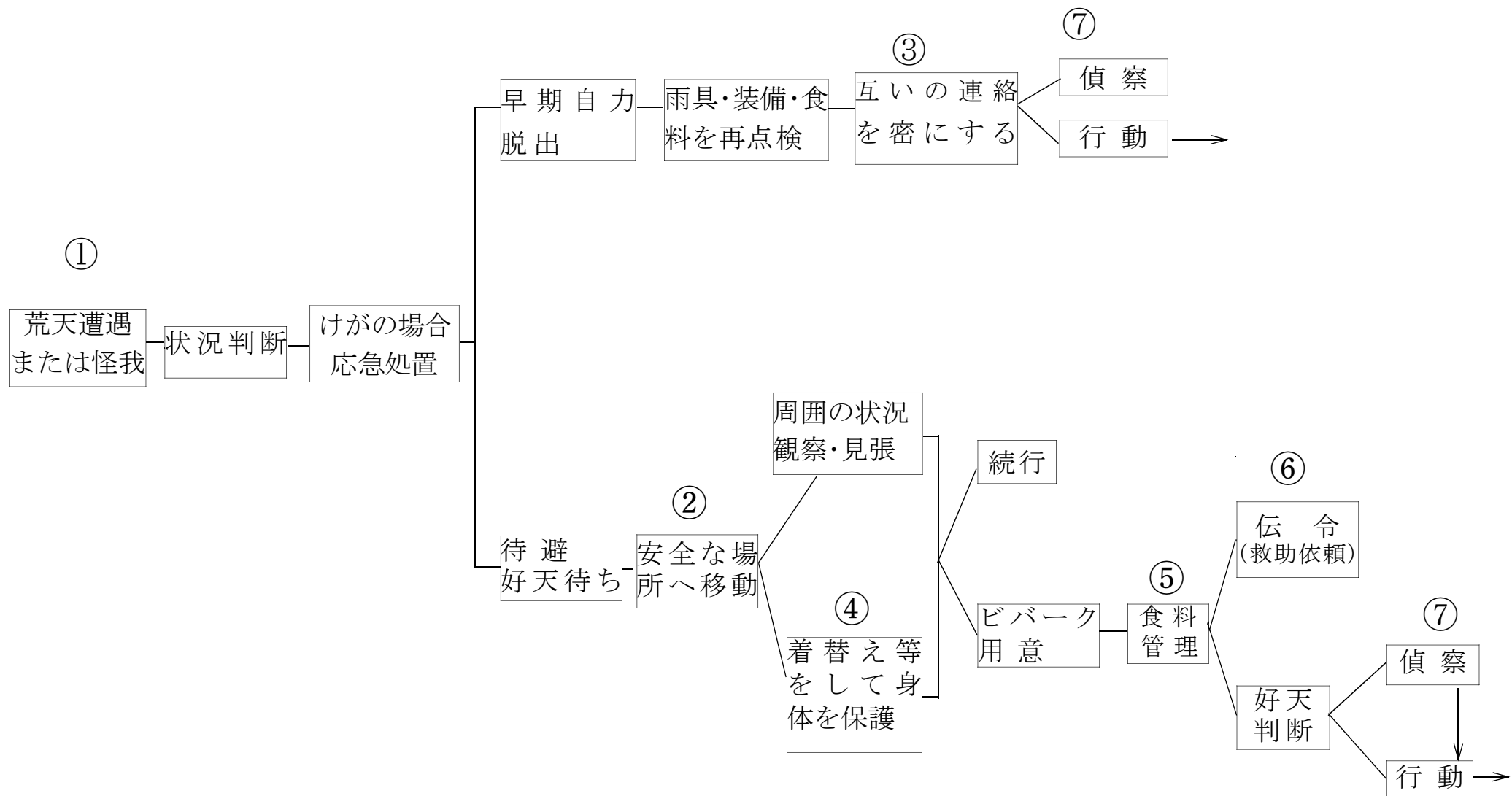
行動するときには多少多くし、停滞時は出来るだけきりつめる。

⑥ 連絡(救助依頼)

携帯電話、トランシーバ等を活用する。連絡のため移動する際は原則として2人1組みとすること。

連絡の内容は発生日時、場所、原因、遭難者氏名、生年月日、年齢、性別、血液型、職業、住所、電話、生死、負傷の部位等になる。

◆危急時における行動フローの例



※なお、重要な事柄なので集会時だけではなく、会報、HP上などで告知するとともに、繰り返しレクチャーなどの機会で全員の意識を高めていきたい。